

滋賀県「観光交流」振興指針(案)の概要

1. 観光の動向

日本の観光産業を取り巻く状況	国内観光	国内人口の減少・高齢化の加速 国内宿泊観光客の回数・宿泊数は横ばい 日本人旅行消費額は減少傾向 個人旅行の参加形態が増加
	インバウンド	訪日外国人の増加 東アジア各国、アメリカからの訪日が中心
	コンベンション	国際会議の開催件数の増加
	国の動向	新たな観光立国推進基本計画による取組
滋賀県の観光を取り巻く状況	国内観光	延べ観光客数は横ばいから微増 日帰り観光客が8割超 県内居住者が約4割、県外では近畿が約6割 来訪目的は自然風景や神社仏閣旧跡など 来訪者の満足度は概ね高いが交通などに不満も
	インバウンド	外国人入込客は外的要因で大きく増減
	コンベンション	県内開催は多くないが周辺で開催
	経済波及効果	宿泊観光客の消費支出は日帰り観光客の5倍
	観光ブランド	「ピワイチ」の取組

2. 滋賀県観光の現状と課題

滋賀県観光の「強み」「弱み」	「強み」	豊富な観光資源 恵まれた県外からのアクセス 大学等の立地 全国でも少ない人口増加県
	「弱み」	低い認知度 不便な県内アクセス 宿泊・滞在型観光が少ない おもてなし意識の向上

滋賀県観光の課題	滋賀県は「よいもの」があるにもかかわらず知られていない 地域活性化にむけた戦略的な取組 滋賀の特性を活かした観光振興 多様な観光ニーズへの適切な対応 県をあげた「おもてなし」の雰囲気・体制づくり
----------	---

3. 基本方針

「観光交流」を通じて、活力ある地域社会の実現を目指す

=訪れてよし、迎えてよし、地域よしの「観光・三方よし」=

4. 基本目標と戦略

<p>【目標1】 観光地「滋賀」の認知度向上</p> <p>○戦略○ ・琵琶湖・滋賀をキーワードとしたブランドの創造と発信 ・ターゲットを意識した継続的な情報発信強化</p>	<p>【目標2】 「滋賀ならではの」の素材や強みを活かした特色のあるツーリズムの展開</p> <p>○戦略○ ・滋賀の特色を際立たせる誘客活動の推進 ・学生や地域住民等による「観光交流」の推進</p>	<p>【目標3】 来訪者、居住者双方がともに満足出来る「観光交流」推進の体制づくり</p> <p>○戦略○ ・来訪者を温かく迎える人材の育成 ・「観光交流」推進にむけた基盤の整備</p>
---	--	---

5. 多様な主体による協働の推進

県・びわこビジターズビューロー・市町・観光関連団体・観光事業者・県民等、各主体の協働による効果的な取組の推進

6. 効果的な事業展開に向けて(目標設定と進捗管理)

目標	観光入込客 4,800万人
	観光消費額 1,640億円

